

# 第1学年1組 社会科学習指導案

指導者 大西 正芳

- 1 日 時 令和4年6月10日（金）11:20~12:10
- 2 単 元 名 ナイル川をめぐるエジプトとエチオピアの物語
- 3 学 習 空 間 情報検索ルーム
- 4 単元（題材）について

(1) 本単元は、学習指導要領社会科地理的分野「(2)内容 B 世界の様々な地域 2 世界の諸地域 ③ アフリカ」に対応している。この中項目は、「空間的相互依存作用や地域に関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること」を主なねらいとしている。また、「取り上げる地球的課題については、地域間の共通性に気付き、我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定すること」としている。そこで本単元では、「水紛争」を地球的課題として設定した。

人間にとって水は必要不可欠である。人間の利用できる淡水は全体の0.01%だといわれている。そのため「水資源」には水質の問題とともに十分な水の量を得られるのかという配分の問題がある。もともと地球上で利用できる水の量が少ないうえにその分布がバランスを欠いているためである。また、急速な都市化や人口増加は各地で水不足をもたらし、水売りから飲料水を買わなくてはならないケースもアフリカを中心とした発展途上国では多く見られる。まさに、21世紀は、水の時代であり、水の確保のために国際的な紛争が生じているほどである。一方で、日本は世界平均の約2倍の降水量があり、水資源の豊富な国とされている。また、水資源を農業・工業・生活用水として大量に利用できている現状もあるため、水不足の国々の人々に比べて、水と向き合う意識が低く、その扱いに慎重さが無い。そこで、本単元では、アフリカ州のナイル川における水紛争を取り上げることとした。ナイル川は、アフリカの赤道地域に発して北流し、地中海に注ぐ国際河川である。エジプトは、その最下流に位置し、5千年前に古代文明を発祥させ、そのときから継続的にナイル川の水を利用してきた。エジプトは降水量がほとんど無く、その歴史的繁栄も、現在のエジプトもすべてナイル川なくしてはあり得なかった。19世紀以後、エジプトは、土木事業によって、ナイル川の積極的な利用を進め、20世紀後半にはアスワン・ハイダムを完成させ、ナイル川のすべての水資源をスーダンと2国で分け合って利用する体制を整えた。それ以後、エジプトは農地および作付面積の拡大を実現し、経済発展と大幅な人口増加を得た。これに対して、上流の水源諸国は、自国の発展のためにナイル川の水を利用する必要があり、またその権利があると考えてきた。そうしたなか、最大の水源国であるエチオピアが、2011年、発電用の巨大なグランド・エチオピアン・ルネッサンスダムを青ナイル川に建設すると発表したことから、下流の水使用国であるスーダンおよびエジプトとの間で水利紛争が起こり、未だ決着の見通しはついていない。本単元では、エジプトとエチオピアの人々の生活や産業の学習を通して、それぞれの国における「水資源」の価値を理解していく。そして、上流国と下流国における「水資源」の衡平な配分について考察していく中で、生徒は「水資源」に対する認識を変容させていく。そして、日本にとって「水資源」とは何か、その価値を改めて考え直すことは、学習指導要領における「我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える」うえで効果的であると考えられる。

(2) 本学級の生徒は、男子18名 女子17名の合計35名である。学習前のアンケート (N=35) では、「アフリカ州のイメージとは何か (複数回答可)」で、「貧困・貧しい」「発展途上国が多い」と答えた生徒は20名 (約57%) と最も多く、次いで「乾燥・砂漠・暑い」と13名 (約37%) が答えている。一方で、「アフリカ州に貧困や発展途上国が多い理由とは」を説明させると、「紛争」と答えた生徒が1名 (約2%) であり、具体的な要因を認識している生徒はほとんどいない状態である。また、メコン川をめぐる水利問題を例に、「上流国と下流国の主張のどちらを支持するか」という項目では、「上流国」を支持すると答えた生徒は6名 (約17%)、「下流国」を支持すると答えた生徒は28名 (約80%)、「分からない」と答えた生徒は1名 (約3%) となった。「下流国」の主張を支持した生徒からは「自国のためだけに上流国が勝手に資源を使うことは間違い」や「他国に影響を与えてまでダムを作るべきではない」「すべての国で平等に資源を分けるべきである」などの理由が多く見られた。

以上から生徒の学習前の題材に対する「当たり前」を「水資源をめぐる争いは上流国が優先されるべきではない」と設定した。本題材では、上流国エチオピアと下流国エジプトにおける人々の生活や産業の学習を通して、それぞれの国における「水資源」の価値を理解させる。そして衡平な配分とは何か、「水資源」の価値を理解したからこそ容易に決断できなくなる生徒の姿を期待する。

(3) 本単元を指導する (個の「ものがたり」を深める) にあたって、次の点に留意したい。

① 「今・ここ」につながる普遍的な概念を設定し「社会的自己」を捉え直す単元構成

本単元では、普遍的な概念を「水の価値」と設定した。単元初めに上流国と下流国の対立を紹介し、どちらの主張を支持するか、衡平な水の配分とは何かについて考えさせる場面を設ける。そして単元終わりに再度その選択について、もう一度見直す場面を設定する。単元を学び終えた今の自分を語るだけでなく、学ぶ前の自分の「ものがたり」をより意識させ、それがどう変容したのかを語り直させたい。

② 学びの過程を生徒のものにする工夫

アフリカ州を学習するにあたって、単にエジプトやエチオピアの資料を教師から提示するのでは、学びが生徒のものになりにくい。そのため、「貧困や飢餓はどこに多いか」を地形や気候の面から予想させ、地図化する作業を通じて、「このように広がっているのか、なぜこの地域に多いのか」という生徒の問いが生まれる場面を設定する。同様に、エチオピアがエジプトより農地面積・降水量ともに多いにも関わらず、貧困や飢餓が多い事実を提示することで、「なぜエチオピアで飢餓が多く発生するのか」という問いを設定していく。また、学びを生徒のものにするためには情意面に働きかけることが有効であると考え。そのため、「紛争の様子」や「コーヒー豆の真実」など動画を単元に組み込むことで、エチオピアで暮らす人々の思いを共感的に理解させたい。

③ ジレンマを内包した語り合う問いの設定

エチオピアによるダム建設の是非において、エジプト・エチオピアともにナイル川利用の正当性を持っている。そのためダム建設の是非を資料に基づいて語り合わせることで、「エチオピアの人々が貧しいままでいいのか」「エジプトの人々が生活できなくなってもよいのか」というジレンマを持たせたい。また、エチオピアは上流国であるにも関わらず、過去のエジプト・スーダンの二国間協定によって、ナイル川の水を使う権利を全く持っていない事実を紹介することで、生徒の思考を揺さぶり、衡平な水配分について語り合わせたい。

## 5 本単元の目標

### (1) 本単元の「ものがたりの授業」構想図

# 『ものがたりの授業』

★授業者のねがい（授業を通して生徒に期待する成長や変容）

水資源の配分を容易に決断していた姿から、各国における水資源の価値を認識し、各国にとって衡平な配分とは何か、悩みながら考える姿になる。

●題材（ ナイル川をめぐるエジプトとエチオピアの物語 ）に対する「ものがたり」の変容  
 (学習前) (学習後)

上流国が勝手にダムを造るなんて許されないと思う。水を配分するなら、すべての国が均等に使えるようにしたらいいんじゃないかな。

探究的な学び  
 他者と語り合う

豊かになるために上流国がダムを造ることは間違いだとは言えない気がする。水を配分するにしても、すべての国にとって良い配分ってすごく難しい。

《（授業者が考えた）単元学習後の「振り返り」例》

\*「自己に引きつけた語り」部分







私ははじめ上流国が勝手にダムを造ることはひどいことだと思っていた。けど学習が進むにつれてだんだん分からなくなってきた。エチオピアでは、モノカルチャー経済やコーヒー豆を先進国に安く買ったたかれ、貧困や飢餓が多く発生している。そんな国が豊かになるためにダムを造ろうとしていることは本当にひどいことなのだろうか。だからといってエチオピアを簡単に優先できるものでもない。エジプトは90%以上をナイル川に頼っており、それが少し減るだけで多くの人々が苦しんでしまうからだ。すべての国にとって良い水の配分について考えたけど、最後までなかなか答えはでなかった。この単元は「水」の価値について気づかされる授業だった。国によって「水」の価値はちがう。エチオピアにとって「水」は「豊かになるためのもの」であり、エジプトにとっては「国のすべて」だ。じゃあ私たちが暮らす日本にとって「水」はどんな価値だろう。世界的に見ても日本は降水量が多いし、困ることがないからあまり「水」の価値は感じていなかった。けど当たり前を感じるこの生活も農業・工業がさかんに行われているのもすべては「水」のおかげだ。今まで気づかなかったけど、どれだけ「水」という資源に恵まれていたのかを今感じるようになった。

### (2) 本単元で育成する資質・能力

<p>知識 技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。</li> <li>①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乾燥帯が広がるエジプトや不安定なモノカルチャー経済の影響を受けるエチオピアで暮らす人々の生活を踏まえて、それぞれの国における「水資源」の問題や価値の違いを理解することができる。</li> </ul>
<p>思考力 判断力 表現力 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナイル川をめぐる水紛争において、エチオピア・エジプトそれぞれの「水資源」の問題や価値を踏まえ、各国にとって衡平な配分とは何かを考察し、表現することができる。</li> </ul>

<p>学びに向かう力 人間性 等</p>	<p>・日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>・ナイル川の水紛争において、各国の「水資源」の問題や価値の違いを理解し、各国にとって衡平な配分とは何かを考察することを通して、日本における「水資源」の価値を捉え直しレポートにまとめることができる。</p>
------------------------------	---	---

(3) 単元構成 (全7時間)

時間	学習課題 (中心の問い) と◆学習内容	生徒の思考・反応・振り返り
1	<p>(学習課題) 上流国と下流国、あなたはどちらの主張を支持する？</p> <p>◆メコン川をめぐる水利問題について知り、上流国・下流国のどちらの主張を支持するか、また、衡平な水資源の配分とは何か考える。</p> <p>資料1 流域国の水資源の依存度 資料2 流域国の人口・GDP など基本統計 ★①資料3 国際水路条約5条・7条</p>	<p>生徒の思考・反応・振り返り</p> <p>上流国が勝手にダムを造るなんてひどい。分配するにしても、5条に書いてるように衡平(均等)に分けるのが良いんじゃないかな。</p> 
2	<p>(学習課題) アフリカってどんな地域？</p> <p>◆アフリカのイメージを出し合う中で、貧困や飢餓に着目し、分布図を作成する。作成した地図から、地域的な差異があることに気づき、なぜ飢餓や貧困が多い地域と少ない地域があるのかという疑問を持つ。</p> <p>資料4 アフリカ州のおもな地形 資料5 アフリカ州の気候の分布図</p> <p>資料6 dollor street</p> <p>★②資料7 貧困層が30%以上の国 ★②資料8 栄養不足の人口15%以上の国</p>	<p>アフリカってどんなイメージがありますか？</p> <p>砂漠とか熱帯雨林とか自然が豊か。貧困とか飢餓のイメージもあります。</p> <p>アフリカ北部に世界最大のサハラ砂漠があるのか。赤道付近は熱帯なんだ。</p> <p>電気や水道もなく、水汲みで毎日1時間近くも…。これってアフリカ全体のこと？</p> <p>貧困も飢餓も同じ地域に広がっている！逆に北アフリカあたりはちがうのか。砂漠の方が、生活が大変そうなのになんでだろう？</p>    
3	<p>(学習課題) 降水量が少ないにもかかわらず、なぜエジプトは食料が生産できるの？</p> <p>◆厳しい自然条件にあるエジプトでは、ナイル川の水を利用した灌漑農業やアスワンハイダムによる安定した水供給によって農地面積を拡大していったことを理解する。</p> <p>資料9 エジプトのデータ (人口・国土面積・砂漠率・GDP など) ★③資料10 東京とカイロの降水量</p>	<p>エジプトはアフリカの中でも人口が多くて豊かな国なのか。国土の90%以上が砂漠で、降水量がない中どうやって暮らしているのかな。</p> 



地図からその秘密を探してみましょう。

資料 11 Google map のエジプト衛星写真  
資料 12 灌漑農業の様子



その通りです。しかし、ナイル川はある特徴を持っています。どんな特徴でしょう？

資料 13 ナイル川月別平均流量 (1900-64 年)



現在のナイル川の水量はこうなっています。

資料 14 ナイル川月別平均流量 (2015 年)



地図からその秘密を探してみましょう。



ダムができる前と後ではどのような変化があったのでしょうか？

資料 15 衛星写真の比較 (1970 年と 2020 年)  
資料 16 エジプトの農地面積の推移  
資料 17 綿花や小麦などの生産量の推移



★④エジプトにとってナイル川(水)とはどのような存在だと思いますか？

4  
5

(学習課題) なぜエチオピアでは深刻な貧困や飢餓が起こっているの？

◆エチオピアでは、自然環境や灌漑率の低さに加え、人口増加、モノカルチャー経済や紛争などアフリカ固有の要素によって貧困や飢餓が引き起こされていることを理解する。

資料 18 エチオピアのデータ  
(人口・国土面積・貧困率・GDP など)

★⑤資料 19 エチオピアとエジプトの農地面積

★⑤資料 20 エチオピアとエジプトの降水量



エチオピアが抱える問題とは何なのでしょう？資料から考えてみましょう。

資料 21 エチオピアとエジプトの人口推移  
資料 22 アディスアベバと東京の雨温図  
資料 23 エチオピアとエジプトの灌漑率  
資料 24 エチオピアとエジプトの穀物生産量の推移



生産量の不安定さに加えて、エチオピアではこのような問題も発生しています。

ナイル川沿いに農地が広がっている！川の水をひくことで農業を行っているのか！



8月～10月は水量がすごい！逆に1月～6月までは極めて少ない！



水量が年間を通して安定している！どうして水量が変わったの？



ダムができている。ダムを造ったことで水量をコントロールできるようになったのか。



安定して水を供給できることで、農地を拡大し生産量も年々増加させることができていたんだ。



95%もナイル川の水に依存しているのか。エジプトにとって、ナイル川の水は命の水であり、国が成立するためのすべてだ。



エチオピアはアフリカの中でも貧困率や飢餓率が高い！けど、エジプトと比べて降水量も農地面積も多いのになぜだろう？



エチオピアでは  
①年々人口が増加している  
②降水量がない時期(乾季)がある  
③灌漑率がエジプトの69.6%と比べて0.5%と極めて低く天水農業である  
④エチオピアの穀物生産量はエジプトと比べて低く、年ごとの変化も大きいから飢餓や貧困が生まれやすいのかな



昨年から続く紛争によって深刻な飢餓も発生しているのか。



資料 25 エチオピアの飢餓 (BBC NEWS の記事)

資料 26 動画「紛争が続くエチオピア北部」

経済の面ではエジプトとどのようなちがいがあ  
るでしょうか？

資料 27 エジプトとエチオピアの輸出品目

このような経済をモノカルチャー経済とい  
います。モノカルチャー経済は何が問題な  
のでしょうか？

資料 28 コーヒー豆価格推移 (1980～2020 年)

★⑥資料 29 動画「コーヒー豆の真実」

★⑦エチオピアが貧困や飢餓から抜け出す  
には何が必要なのでしょうか？

6

(学習課題) ダム建設によるエチオピアとエ  
ジプトの対立、あなたはどうか考える？

◆エチオピアによるダム建設計画について  
知り単元を通した資料に基づいて、エチオ  
ピアのダム建設の是非について考える。

7

(本  
時)

(学習課題) エチオピアのダム建設は認め  
らるべきか？

◆エチオピアのダム建設の是非について  
資料に基づいて考えを語り合う。衡平な  
配分を考察することを通して、「水資源」  
の価値を捉え直す。

資料 30 ダム建設によるエチオピアへの効果

資料 31 水路国の社会的及び経済的状況

(貧困率・飢餓率・GDP など)

資料 32 各水路国における当該水路の依存  
人口と依存率

資料 33 水路国の雨温図・気候的条件

資料 34 国際水路条約 5 条・7 条

★⑧今衡平性について出ましたが、ナイル  
川の水を 85%も供給しているエチオピア  
がダムを造ることは衡平性に反してい  
ると思いませんか？

★⑨資料 35 「1959 年のエジプト・スー  
ダンの利水協定」による現在のナイル川  
の水量配分

★⑩では、衡平な利用とするにはどんな  
配分になるのでしょうか？

★⑪衡平な配分の困難性を実感したあと、  
単元 1 時間目の衡平だと思っていた配分  
をスライドで紹介することで、考えの変  
容を認識させる。また、国によって水  
資源の持つ価値が違うことを想起させ、  
日本にとっての水の価値とは何かを捉  
え直させる。

エジプトはバランスよく輸出しているけど、  
エチオピアは比べてコーヒー豆など特定  
の農産物に依存しているな。

毎年の価格が不安定だ。これだと国の経  
済が安定しないな。しかも先進国によっ  
てこんなに安く買いたたかれているのか！

灌漑率を上げて、安定した食料生産がい  
るな。また産業でも特定の農産物だけ  
でなく工業化や貿易における公正な取  
引が必要だ。

エジプトに比べてエチオピアは貧困率も  
高く GDP も極めて低い。貧困から脱出  
したいエチオピアにとって水資源を有  
効に使うことは当然の権利だと思う。

95%もナイル川の水に依存しているエ  
ジプトにとってダムの建設は生命線に  
関わるから良くないんじゃないかな？

エチオピアの事情も分かるけど、上流  
国がダム建設を強行するのは国際水  
路条約の 5 条(衡平利用の原則)に反  
してる気がする。

うーん…けどやっぱりダメな気が。

85%も供給しているのに 1%も使わ  
せてもらえてないの！こんなエチオ  
ピアにとって衡平じゃない！

85%も供給しているからエチオピア  
に多く配分されるべきだけど、数%  
減るだけでエジプトにとっては致命  
的だし…

うーん…みんなにとって衡平な配分  
って難しい…。



## 6 本時の学習指導

### (1) 目標

- ・ エチオピアのダム建設の是非について、資料に基づいて考察し、自分の考えを表現することができる。
- ・ エチオピア・エジプトそれぞれの「水資源」の価値を踏まえ、衡平な配分とは何かを考察することができる。

### (2) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	○教師のかかわり・★しかけ
<b>学習課題：エチオピアによるダム建設は認められるべきか？</b>		
1 学習課題について単元の学びに基づいて自分の考えを明らかにする。 (四人班・同質)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほかの生徒との対話を通して、自分の考えを捉え直している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料の一覧を各班に配布し、資料に基づいて説明させる。</li> </ul>
2 ダム建設の是非について班の考えを発表する。 (全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほかの班の考えを聞いて、自分の考えを捉え直している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同質ごとに発表させ、異質の考えを持つ班に疑問点を質問させる。</li> <li>★ 生徒の語り合いを踏まえ、論点を「衡平性」に絞り、再度語り合わせる。</li> </ul>
立場 S1、S2：認められるべき S3、S4：認めるべきではない		
<p>T：では、考えを。どうですか？はい、1班さん、どうぞ。</p> <p>S1：私は、認められるべきだと思います。なぜなら、エチオピアは他の国と比べても貧困率が高く、灌漑率も低いです。数百万人の国民を貧困から救うためには資源を活用すべきだと思います。</p> <p>T：S2さん、うなずいていましたが、S1さんの考えについて、どう思いますか？</p> <p>S2：私も、認められるべきだと思います。そもそもナイル川の水の85%はエチオピアが供給しており、その資源を上流国であるエチオピアが使うのは当然の権利だと思います。</p> <p>T：今のS1さんとS2さんの話について、S3さん、どうですか？</p> <p>S3：私は、認めるべきではないと思います。たしかにエチオピアの貧困率が高いです。しかし下流国であるエジプトは降雨が少なく、国土の約9割が砂漠で覆われています。水資源の約95%をナイル川に依存しているため、水量が変わると逆にエジプトの人々が苦しむからです。</p> <p>T：S4さん、どうですか？</p> <p>S4：僕も認めるべきではないと思います。国際水路条約5条にあるように、国際河川は衡平な利用が求められます。エチオピアからナイル川が流れているとしても、上流国が自国のためにダム建設を行うのは衡平ではないと思います。</p> <p>S1：たしかに、エジプトへの影響はあると思うけど、エチオピアが貧しいままでいいんですか？</p> <p>S4：えっと、エチオピアが貧しいかどうかに関わらず、上流国が好きなように使うのは衡平ではないってことが問題だと思うんですが。</p> <p>T：なるほど。今衡平性について話が出てますね。国際水路条約5条に衡平な利用とありますが、<u>ナイル川の水を85%も供給しているエチオピアがダムを造ることは衡平性に反しているかどうか(論点を絞る)</u>ですね。ほかの人は今の意見を聞いてどう思う？もう1度4人班で話し合ってください。</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 仮に考えが偏った場合は、教師から「エチオピアは貧しいままでよいのか」と問い返す。</li> </ul>

<p>3 資料「1959年のエジプト・スーダン間の利水協定」から、現在のナイル川の水利用の配分を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二国間協定によって、ナイル川の水利用はエチオピアにとって衡平性がないことを認識する。</li> </ul>	<p>★ 二国間の利水協定によって、現在のナイル川の水利用の配分を紹介し、衡平性があるかを問う。</p>
<p>4 「衡平な配分とは何か」について考察し、語り合う。(四人班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての国にとって衡平な配分を行うことは困難であることを認識していく。</li> </ul>	<p>★ 選択肢(ナイル川の水量を供給している割合・流域で暮らす人口に基づいた割合・ナイル川の依存性に基づいた割合・均等に3か国で配分した割合)を提示し、どれが衡平な配分かを考察させる。その際に、他国への影響や各国の社会的状況の資料などに基づいて考察するように声かけを行う。</p>

各班の語り合い(同質四人班 S1、S2、S3、S4)

S1: 衡平な配分ってどうするの。  
 S2: エチオピアから供給されている水が85%ってことは、85%を配分するってこと?  
 S3: エチオピアとエジプトとスーダンで30%ずつ分けたら?  
 S1: そんなわけないやん。依存性を優先していったらエジプトやスーダンの配分が多くなるんじゃない?  
 S4: けどさ、エジプトにとっては現在の配分から1%でも減っただけでも、それだけで国の危機になるんじゃない。  
 S2: それはスーダンも一緒じゃない? エジプトと同様にスーダンも降水量が少ない地域なんやから、今の配分から減ったら生活できなくなるんじゃない?  
 S1: じゃあエチオピアがそのままの配分で泣き寝入りしろってこと?  
 S2・S4: いや、それは…。衡平な配分ってできるの?

<p>5 「衡平な配分」の困難性を共有し、各国にとっての水資源の価値を語り合う。(全体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エチオピア・エジプトにとってそれぞれ水資源とはどんな価値を持っていて、合意することが難しかったかを考えている。</li> </ul>	<p>○ 単元1時間目の考え(衡平だと思っていた配分)をスライドで紹介することで、水資源に対する認識の変容を意識させる。</p>
<p>6 単元を振り返り、日本にとっての水の価値とは何かを捉え直して語る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の学びを踏まえて、日本にとって水資源の価値とは何かを振り返りに書いている。</li> </ul>	<p>○ 他国と比較して、水資源が豊かである日本の降水量や水が使われている場面を紹介しながら、「日本にとって水資源の価値とは」を投げかける。</p>

## 7 見取り

- ・ エチオピアのダム建設の是非について、資料に基づいて考察しているかをワークシートと単元終了後のレポートで見取る。
- ・ エチオピア・エジプトそれぞれの「水資源」の価値を踏まえ、各国にとって最も良い配分(衡平な配分)を考察したかを単元終了後のレポートで見取る。